

## 事業所における自己評価結果（公表）

公表日：令和6年3月25日

事業所名：児童発達支援事業所chouchou熊谷

|         | チェック項目   | はい | いいえ | 工夫している点  | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標   |
|---------|--|----|-----|--|--|
| 環境・体制整備 | ① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である  | 5  | 0   |  | 定員上限を守り、利用していただいている。   |
|         | ② 職員の配置数は適切である   | 4  | 1   | 欠席や不在が重なった際は、非常勤職員を配置するなどしている。   | 利用者10名に対して3人の人員配置基準は満たしている。さらに、1・2名の加配を設定しているため、人員配置は適切である。                    |
|         | ③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている   | 3  | 2   | 待機場所に本人のシールを貼ったり、活動内容に応じて目印を設置（設定）している。<br>視覚的にわかりやすいように、絵やシールを貼り伝わりやすいようにしている。<br>玄関がバリアフリーになってはいるが、入室後のフロアはバリアフリーになっている。 | 入口の段差については、借家であることから改善が難しくなっているが、階段の昇り降りの際は必ず手を取って行うように保護者の方にも周知している。          |
|         | ④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている業務改善   | 5  | 0   | 昼食、おやつ後窯買いは掃除機をかけたり、清掃道具が各所にあり対応ができるようになっている。  | 毎日の清掃・消毒を徹底し、とくにお子様に触れる可能性のあるものは清潔に保つようになっている。                                 |
| 業務改善    | ⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している  | 5  | 0   | 毎日の終礼で都度共有し話し合いを持っている。<br>その場限りではなく、常に関わり方等を意識できるように職員が見える場所に目標を掲示している。  | 毎日必ず終礼を行い、休みの職員には管理者から共有するようにしている。   |
|         | ⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている  | 5  | 0   |  | 保護者向けの事業所評価は、スマートフォンで手軽にできるようにしている。また、外国人の方へは、1つ1つアンケートの項目を説明し協力いただいている。       |
|         | ⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している                                   | 5  | 0   |  | 年に1度ホームページで公表している。   |
|         | ⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている   | 1  | 4   |  | 現在、第三者からの評価はいただいていない。  |
|         | ⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している適切な支援の提供  | 5  | 0   | 各自、外部研修にも参加し内部研修を通して内容を共有している。<br>研修の希望アンケートの実施もあり、内部のほかに外部研修も定期的に行われている。  | 外部研修への参加を管理者だけでなく、現場スタッフにも周知し、希望を取り参加している。また、外部研修の内容を内部研修で共有し、スタッフ全員で意識を高めている。 |
| 適切な     | ⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している   | 5  | 0   | 職員全員で話し合いの時間を設け、案を出しあっている。   | 職員で個別支援計画の見直しの時間を設けている。また、保護者へのアセスメントを行い、お子様に必要な支援を検討している。                     |
|         | ⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している   | 4  | 1   | アセスメントツールを使うだけでなく、理解にもつながるように説明の機会を設けるとよい。   | アセスメントの内容はその都度終礼などで共有し、回覧をしている。  |
|         | ⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている | 5  | 0   |  | 「発達支援」がメインになっている。今後の5領域については理解して適切な支援計画を作成するように努める。                            |
|         | ⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている  | 5  | 0   |  |  |
|         | ⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている   | 1  | 4   |  | 現場リーダーがマンスリーブプログラムを立案している。   |

|                          |  |   |   |  |  |
|--------------------------|--|---|---|--|--|
| 支援の提供                    | ⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している   | 3 | 2 | 現利用者様に合ったプログラム内容であり、プログラム内にて活動内容・支援方法も無限だと思う。<br>プログラムがある程度決められているため、月ごとにできるだけ流れがかぶらないようにしている。 | ジュシユのプログラムの範囲で設定しているが、細かい内容や実施方法についてはお子様によって変更している。                        |
|                          | ⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している   | 5 | 0 |  | 人員配置にゆとりをもっているため、お子様の発達段階や活動の内容によって分けることができている。                            |
|                          | ⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している   | 4 | 1 |  | 終礼時に次の日の活動やおやつ（アレルギー対応のお子様がいるため）について共有している。                                |
|                          | ⑱ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している  | 4 | 1 |  | 毎日終礼を行い、些細なことでも共有している。   |
|                          | ⑲ 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている   | 4 | 1 |  | 毎日、経過記録を記入し支援についての記録が残るようにしている。  |
|                          | ⑳ 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している  | 4 | 1 |  |  |
| 関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携 | ㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している  | 5 | 0 |  | お子様の状況を事前に職員間で共有し、管理者が参加している。  |
|                          | ㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている  | 2 | 3 |  | 相談支援専門員の方と連携している。  |
|                          | ㉓（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている                           | 2 | 3 |  | 該当なし   |
|                          | ㉔（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている                                       | 1 | 4 |  | 該当なし   |
|                          | ㉕ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている  | 4 | 1 |  | 事前にお子様についての状況を職員間で話し合い、管理者が引継ぎをしている。保護者の方からの希望があれば、利用時の様子などをまとめた書類を提出している。 |
|                          | ㉖ 移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている  | 5 | 0 | 可能な限り場が設けられており、最大限の情報共有が取られていると感じる。  | 小学校からの引継ぎについての依頼を受けて実施している。  |
|                          | ㉗ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている   | 3 | 2 |  | 外部研修などで助言を頂いている。   |
|                          | ㉘ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある  | 0 | 5 |  | 熊谷では実施はないが、他事業所では実施している。   |
|                          | ㉙（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している   | 2 | 3 |  | 管理者が参加している。  |
|                          | ㉚ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている   | 5 | 0 | 帰りの引き渡し時にその日の出来事を保護者に伝え確認している。   | 降園時に保護者1人1人とお子様の様子について共有している。  |
|                          | ㉛ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている   | 3 | 2 |  | 保護者会で、家庭でできる支援などの紹介をしている。  |
|                          | ㉜ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている   | 5 | 0 |  | 契約時に説明している。  |
|                          | ㉝ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている | 5 | 0 |  | 半年に1回以上の支援計画の見直しのタイミングで同意を頂いている。   |

|            |  |   |   |  |  |
|------------|--|---|---|--|--|
| 保護者への説明責任等 | ⑳ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている                              | 5 | 0 | 管理者の場合は直接、職員が悩みを受けたときは管理者に報告し、管理者が対応している。                                      | 保護者が気軽に質問できるようにメッセージを受け付けるなどしている。事業所内相談や家庭訪問をしての相談も実施している。 |
|            | ㉑ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している                               | 5 | 0 | 年に数回、保護者参加行事があり、保護者会も開催され、参加率も高く連携されていると感じる。                                   | 夏祭り、運動会、遠足、卒園式には保護者の方に参加していただき、その際に保護者会や保護者同士の交流の場を設けている。  |
|            | ㉒ 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している | 5 | 0 |  | 保護者からの相談や要望については、スタッフ同士で共有し支援に反映している。                      |
|            | ㉓ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している                           | 5 | 0 |  | 月に1回のシュシュ通信、1人ずつの活動報告書を初め、SNSでの活動内容の発信をしている。               |
|            | ㉔ 個人情報の取扱いに十分注意している  | 5 | 0 |  | 個人情報について、契約時に確認・承諾をさせていただき、名前などが外部から見えないように配慮している。         |
|            | ㉕ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている  | 4 | 1 |  |  |
|            | ㉖ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている   | 1 | 4 |  |  |
| 非常時等の対応    | ㉗ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している        | 5 | 0 | 定期的に事業所内で訓練を実施し、振り返りを行い話し合いの時間を設けている。玄関入口に緊急時のマニュアルが掲示されており、いつでも対応できるようになっている。 | 玄関にマニュアルを掲示している。また、スタッフ同士で訓練や確認を定期的に行っている。                 |
|            | ㉘ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている   | 5 | 0 |  | 定期的に行っている。   |
|            | ㉙ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している  | 5 | 0 |  | 契約時や面談時に保護者の方へ確認している。                                      |
|            | ㉚ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている                                       | 4 | 1 | 保護者とも常に連携を取り合っている。   | 保護者の方と相談しながら、おやつを分けたり、別テーブルや別室での食事なども実施している。               |
|            | ㉛ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している  | 5 | 0 |  | 些細なことでも記入し、その都度改善策を検討している。                                 |
|            | ㉜ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている   | 5 | 0 | 定期的に確保されていると感じている。   | 年1回以上、新任者入社した際はその都度行っている。                                  |
|            | ㉝ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している | 5 | 0 |  | 契約時に説明、承諾を得ている。  |